

地域医療連携だより



膝関節・スポーツ整形外科を通じて地域貢献を



武田病院
整形外科
市丸 昌平

1月より整形外科医として着任しました平成22年卒の市丸昌平と申します。

私はまず京都府立医科大学で研鑽を積み整形外科専門医を取得するとともに、基礎研究で成果を挙げて医学博士も取得しました。次に赴任したごくさい病院や京都鞍馬口医療センターでは、一般臨床に加え、変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術や高位脛骨骨切り術、スポーツ選手の膝前十字靭帯損傷や半月板損傷に対する関節鏡手術などを多数経験して参りました。これまでに学ん

できたことを存分に生かし膝関節・スポーツ整形外科を通じて地域の健康増進や競技レベルの向上に貢献できればと考えております。

当院整形外科ではスポーツ整形外科専門クリニック(専門外来)を開設するとともにリハビリテーション施設を充実する予定です。京都駅前という利便性の高い立地を生かし、京都府立医科大学をはじめ周辺の医療施設とも緊密に連携を取りながら最善の治療を実践できる環境を整えて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

理念

- ・思いやりの心
- ・地域社会の信頼
- ・職員相互の信頼

基本方針

- ・ブリッジ・ザ・ギャップス
- ・患者さんの権利尊重
- ・信頼の医療に向けて
- ・地球にやさしい環境づくり

環境方針

- ・省資源・省エネルギーの推進
- ・廃棄物の3R
(減らす、再使用、再資源化)の推進
- ・安全性・快適性の推進
- ・環境広報活動の推進

ポリファーマシー（多剤処方・多剤併用）対策チームの活動

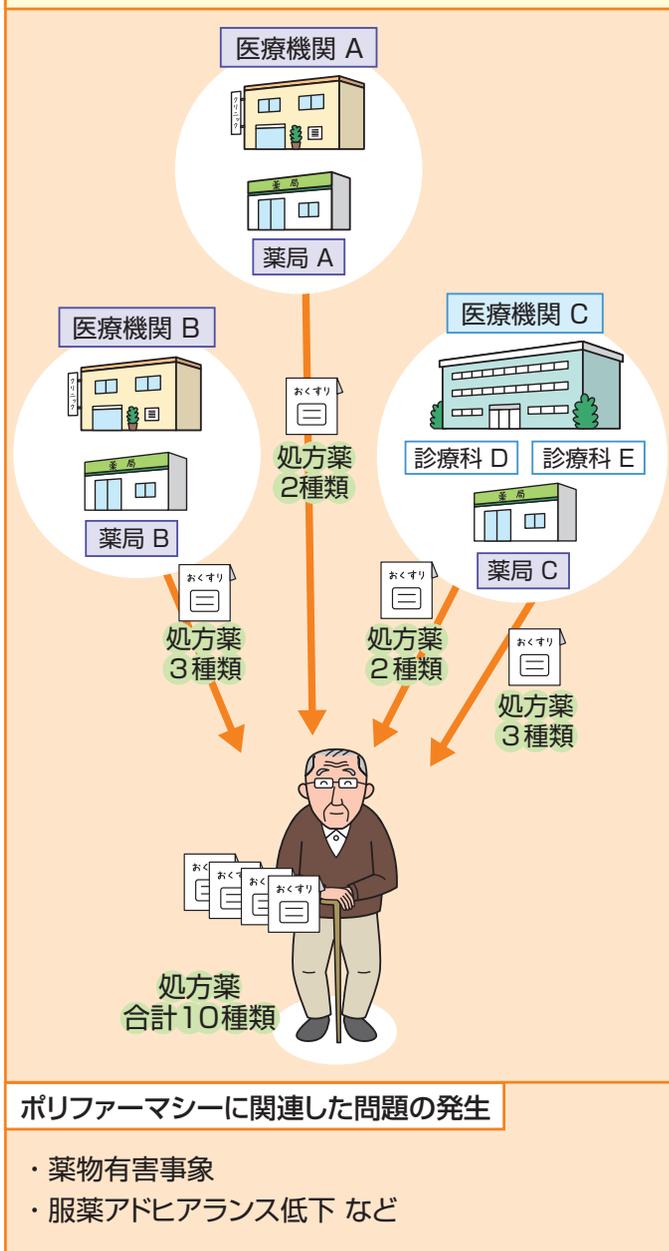


ご高齢の方は、色々な疾患をお持ちのことが多く、かかりつけ医・かかりつけ科が複数になってしまうことがよくあります。その影響で、沢山のクスリを処方されることが少なからずあります。実は、クスリも飲み方や飲み合わせによっては危険なこともあり、「クスリのリスク」が問題となることもあります。

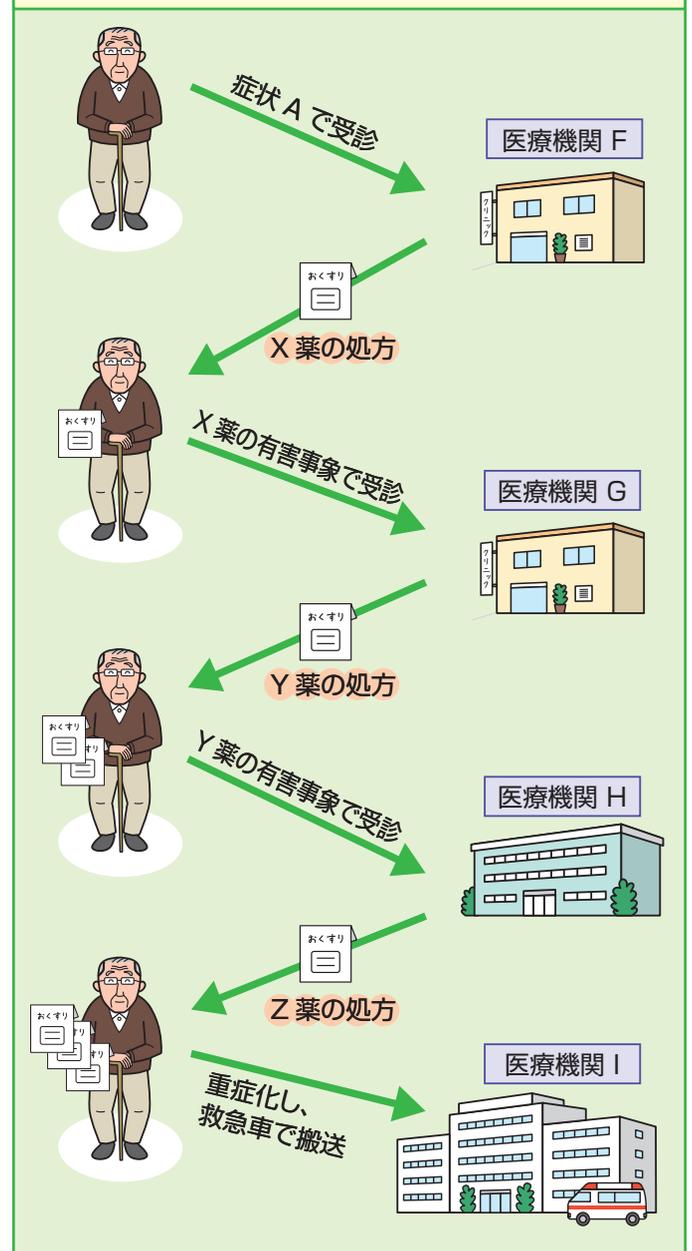
昨今、このように多数のクスリを内服することが大きな問題となっており、「ポリファーマシー」と言われます。（例1）

また、クスリによる副作用がクスリを増やしてしまう、処方カスケードという問題もあります。（例2）

例1. 多病による複数医療機関・診療科の受診

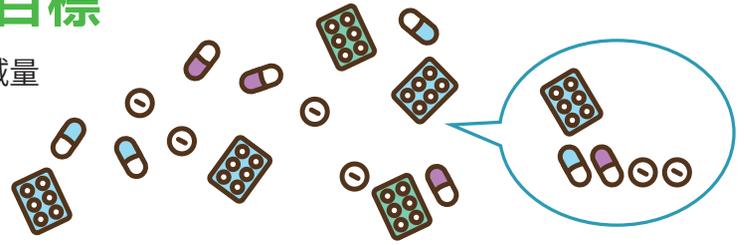


例2. 処方カスケードの発生



ポリファーマシー対策の目標

- ・ご高齢の方にとって危険なクスリの中止、減量
- ・飲み合わせの悪いクスリを中止
- ・不必要なクスリを中止
- ・**必要性の高いクスリのみ継続**



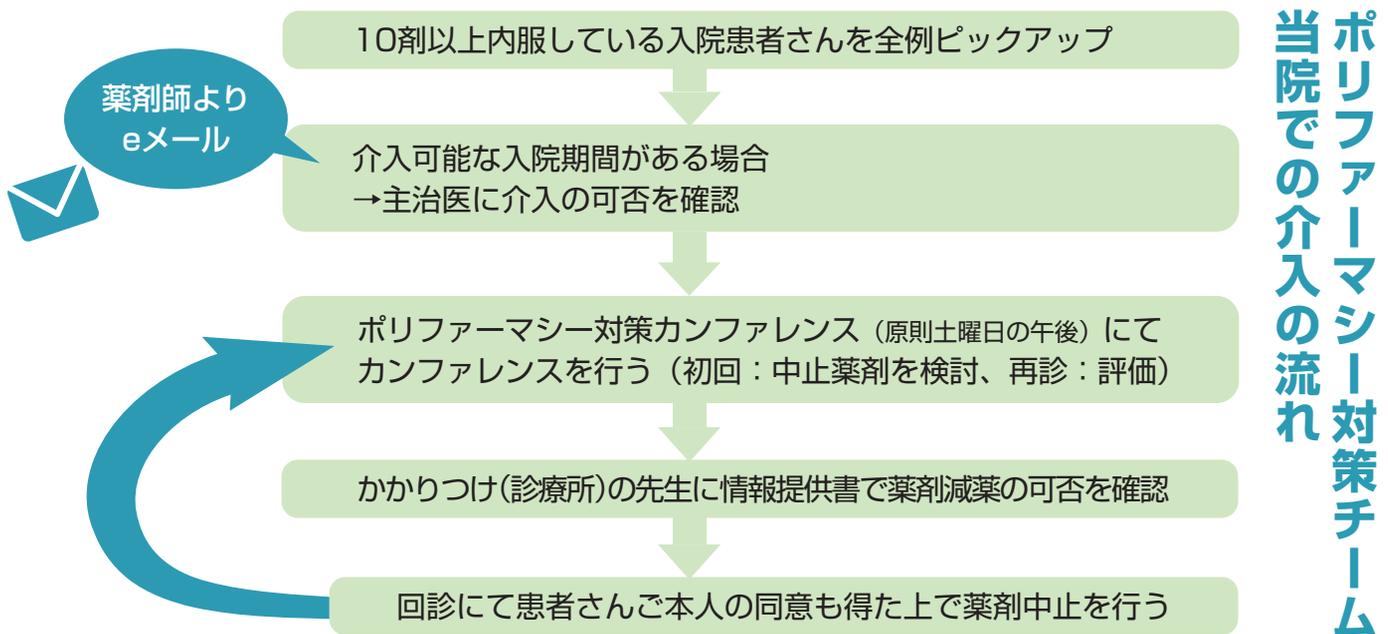
✓クスリ代も無料ではありません。本当に必要なクスリに絞るだけでも、毎月の医療費の負担を減らすことができます。(1日100円分の不要なクスリを減らすだけで、年間36,500円の節約になります。)

当院での介入の方針 (具体的な流れは、以下のフローチャートをご参照下さい)

- ・入院患者さんを対象に行っております。
- ・かかりつけの先生との連携も行った上でクスリを調整します。
- ・退院後は、かかりつけの先生にクスリを減らした状態で引き続き経過を診て頂きます。

★入院中に行うメリット★

- ・クスリを中止したことで症状が出現したときには、速やかに対応でき、必要であれば中止したクスリを適切に再開することができるので安心です。



カンファレンスの様子



回診の様子



回診で患者さんにご説明し同意を得る

